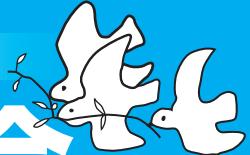


日本小児看護学会

Japanese Society of Child Health Nursing



News Letter

日本小児看護学会 第21回学術集会 開催に向けて

学会長 小木曾國子
(埼玉県立小児医療センター)



第21回は、埼玉の地で学術集会が開催されます。学会テーマは「子どもたちの未来は私たちの未来－保健・医療・福祉・教育の絆－」です。特別講演では、あいち小児保健医療総合センター杉山登志郎保健センター長兼心療科部長に「そだちの凸凹（発達障害）そだちの不全（子ども虐待）」として、子どもの成長発達についてさまざまな視点から話題提供をしていただき、皆様と一緒に考える機会としています。教育講演「モンスターペアレンツ論を超えて～保護者の思いと背景を読みとる」は、大阪大学大学院小野田正利教授に保護者のクレームがなぜ起るのかに鋭く入っていただき、複雑化している子ども、家族、医療者の現状と対応について考えていきます。

シンポジウムでは、保健・医療・福祉・教育のつながりを考えるために、臨床の実践者、教育者、地域の福祉の実践者に加え教育現場での医療実践者に忌憚のないご意見をいただきます。また、医療的ケアの必要なお子さんを育てているご家族をシンポジストとしてお迎えしています。ぜひ、会場の皆様と一緒に連携していく未来を描いていこうと思います。

教育講演・特別講演を、シンポジウムで現実に発展させていくことを期待しています。また、子どもに携わる多くの看護師や多職種を含めた関係者が役割を十分理解し、自分たちがその役割を担えるよう子どもの環境、自分達の環境にも働きかけていくことを期待し企画しています。

前回に続き学会企画としてエキスパートパネルや看護師を目指す高校生等を対象にした説明の場も企画しています。テーマセッションは、認定・専門看護師から旬の企画が持ち込まれています。担当施設からも、教育に関する企画を企画しております。

臨床が、学術集会を担当するのは、長野県（第17回）以来です。慌ただしく、騒がしいとも思える社会・政治の動きに、子どもたちの環境が少しも揺るがされることのないよう、埼玉の地で多くの会員の皆様と意見交換できることを願っています。

埼玉県は、東北や他県からの交通の便もよいところです。開催時期は、地元の祭りの時期とも重なり、夏の暑さを良い意味で楽しんで頂けると思います。懇親会は、手作りながらもおもてなしの心を大切にしていこうと担当者一同、色々企画を考えています。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日本小児看護学会 第21回学術集会ご案内

テーマ：子どもたちの未来は私たちの未来－保健・医療・福祉・教育の絆－

会期：2011年7月23日(土)、24日(日)

会場：埼玉会館 埼玉県さいたま市浦和区高砂3丁目1-4

TEL 048-829-2471

学術集会プログラム：

1日目 会長講演：「小児専門病院管理者の視点から

保健・医療・福祉・教育の絆を再考する」

特別講演：「そだちの凸凹（発達障害）そだちの不全（子ども虐待）」

杉山登志郎（あいち小児保健医療総合センター

保健センター長兼心療科部長）

総会、テーマセッション、一般演題（口演・示説）

ナーシングサイエンスカフェ：「未来のナース集まれ！」

懇親会（浦和ロイヤルパインズホテル ブッフェレストラン「ミケーラ」）

2日目 教育講演：「モンスターペアレンツ論を超えて

～保護者の思いと背景を読み取る」

小野田正利（大阪大学大学院 人間科学研究科教授）

シンポジウム：「保健・医療・福祉・教育

～地域との連携の未来像を描く～」

テーマセッション、一般演題（口演・示説）、ランチパフォーマンス

参加申し込み：

学術集会Webサイト

<http://www2.convention.co.jp/jschn2011/>
から画面表示に従い登録して下さい。

参加費：

会員	事前登録	9,000円
	当日登録	11,000円

非会員	事前登録	10,000円
	当日登録	12,000円

学生（大学院生除く）	事前・当日登録	3,000円
------------	---------	--------

懇親会 6,000円

事務局（学術的なお問い合わせ）：

埼玉県立小児医療センター看護部

埼玉県さいたま市岩槻区馬込2100

Email : jschn21@convention.co.jp

運営事務局（演題登録、運営に関するお問い合わせ）：

日本コンベンションサービス（株）関西支社

大阪市中央区今橋4-4-7

京阪神不動産淀屋橋ビル2階

TEL : 06-6221-5933

FAX : 06-6221-5938

Email : jschn21@convention.co.jp

『最前線！！ 子どもの命と向き合って ～小児救急看護認定看護師の活動～』

■ 加藤 裕子（仙台市立病院 救命救急センター外来 小児救急看護認定看護師）

小児救急看護認定看護師の認定を受けてから間もなく更新の時期を迎えます。1期生という責任の重みを感じながら、全国と共に頑張っている仲間がいるのだと意気込んでいた5年前でしたが、振り返るとあっという間です。5年目の今も「今日の自分は子どもたちの役に立つ仕事がひとつでもできたのか」、自問自答の日々を過ごしています。

平成19年、それまで勤務していた総合病院の小児科の病棟が閉鎖になりました。これまでの活動が無駄になってしまったような虚しさを感じ、小児科のない病院で小児救急看護認定看護師として活動していくのか悩みました。いろいろと考えるうちに、これは認定看護師としての働きがまだ足りない私に「これまで以上の覚悟をもって取り組みなさい」と言われているように思え、助けを必要としている子どものそばに行こうと決めました。

そして現在は仙台市立病院の救命救急センター外来に勤務しております。年間約16000名の患者様が受診され、そのうち約5400名が15歳未満の患者様です。二次および三次救急患者を原則としていますが、宮城県内で唯一365日24時間、小児科医が当直しているため、受診依頼や相談の電話が絶えません。

特に夜間は、母親の心配な様子が伝わってくる電話が多くかかるときます。「夕方は38℃だったのに今、39℃に熱が上がった。熱さましを使ったのに全然下がらない。」詳しく聞くと水分は摂れていて、

今は眠っているということもよくあります。電話で十分に伝わっているのか心配な面もありますが、できるだけ具体的な方法を伝え母親が実践できるような指導を心がけています。

育児中のスタッフも援助の対象として看護部の教育研修の「産育休研修」に参加し、育児支援の情報提供をしています。母親として抱えている悩みや不安を共有する場でもあり、私にとっては生の声を聞ける貴重な場にもなっています。

また、仙台市の子供未来局子育て支援課と連携した活動も新たに加わりました。児童館の職員や一時預かり保育の協力会員への講習会の講師、また子育て支援情報の提供を目的としたラジオ番組にも出演しました。子どもや家族への直接的な援助ではありませんが、大切な活動と考えて取り組んでいます。

救急外来、小児科外来、小児病棟やICU等の救急病棟と小児に関連する部署はたくさんあります。各部署で勉強会を実施しましたが、それらを連携していく横断的な活動はまだ十分ではありません。それぞれの部署での看護を充実させながら、連携を深めるような活動をしていくことが今後の課題です。



委員会活動紹介 国際交流委員会

委員長：中村由美子

委 員：江本リナ，宗村弥生，平田美佳

2010年に、日本小児看護学会は20周年を迎え、さらなる学会の発展への一步を踏み出しています。今年度から新規事業として設けられた国際交流委員会は、子どもの健康増進に寄与するという本学会の目的を遂行するため、国際交流活動の視点から学会での事業内容を考えていく委員会です。これからのが国の小児看護を方向付ける上で注目されるキーワードとして、“国際化”があげられます。現在、わが国の看護系大学は200校近くになり、多くの大学でもタイや韓国、アメリカ、イギリスなどの諸外国の大学との国際交流が行われています。

アジア太平洋地域では、2010年5月にアジア太平

洋小児看護師協会（Asia Pacific Paediatric Nurses Association；APPNA）が発足しています。各国の情報を共有することや、小児看護師の研修および能力開発を促進することにより、それぞれの国的小児看護師協会の専門的発展に寄与することを目指しています。APPNAは、第14回ASEAN小児科学会とともに2011年4月14日～17日にシンガポールで開催されます。また、第2回世界看護科学学会は、2011年7月14～15日にメキシコのカンクンでの開催です。

これから、会員の皆様がグローバルな視点で、世界の小児看護に目を向けていけるように様々な情報発信をしていきたいと考えています。



「リレートーク」川出富貴子さん

自己紹介

高知女子大看護学科の初期の卒業生です。臨床は慶應義塾大学病院で主として小児病棟勤務、その後、信州大学医療技術短期大学部、三重県立看護大学、愛知医科大学、川崎医療福祉大学等、現在は宇部フロンティア大学で教鞭をとっています。メダカルフレンド社の小児看護学テキストなど長い間「渡部乙恵」を使っていました。この頃、領域を越えてご縁が広がり楽しくありがたい日々です。

看護師になったきっかけ

大学受験の真っ最中に肺に陰があるといわれ入院。たいしたことはなかったのですが、その時「実るほど頭を垂れる稻穂かな」などと色んなお話をしてくださいました。院長先生やすてきな看護師さんとの出会いがありました。退院後すぐ高知女子大の先生が募集に見え、いくつかの出来事が重なり看護師になろうと決めました。

新人時代の思い出

卒業研究は長期入院児の学習に関するもので、その延長線上で子どもの看護を選ぶことになりました。勤務した当初、大学病院といえども内科・小児科の混合病棟が一般的でした。その中で10名の方が亡くなられると、9名まで看取らせていてただくことになりました。その時はその意味が分からなかったのですが、今では待っていてくださり選ばれたんだと、人生の最後に立ち会えたことを光栄に思っています。また、悪性腫瘍で右足を切断された方が、ないはずの足痛を訴えられ戸惑ったことがあります。シュタイナーを学んできた今なら、そこにエーテル体が流れている疼痛の理解ができるのですが。さらに、余命幾ばくもないことを悟った男の子が、母親を諭すように自分が亡くなってしまって悲しまないでとけなげに振る舞っていた姿、やっと授かったファロー四徴症等の複合的な疾患で全身チアノーゼのあるお子さまを、宝物のようにご自分の命よりも大事に慈しんでおられた姿など、子どもと母親の優しさ強さが脳裏に焼きついています。また、未熟児のチェックリストを作成し秋田の看護学会で発表できることも思い出深いものの一つです。

小児看護の魅力

子どものケアは相互関係の中でお互いに成長し合える魅力があります。子どもは大人の先入観を越えるすばらしい可能性を秘めており、個別性はあるものの純粋さ、頑張り、時に思いもかけぬハッとする素晴らしい言動をします。その中で多いに啓発されるものがあります。子どもたちやお母様方に随分育てていただきました。感謝あるのみです。学生たちはよく子どもにケアされた、元気を貰ったと言われます。言葉を持たない未熟児や植物状態にある子どもたちからも、一生懸命生きている姿に有形無形のサポートを受けています。入院中は痛みや・嘔吐・下痢などの苦しい症状や骨髄穿刺・ル

ンバールなど痛い検査治療で苦しい体験をいっぱいしているのに、楽しかったクリスマス会のことはよく覚えていて、大変だったことを忘れたかのように、病院のクリスマス会に行きたいとお母さんにねだって満面の笑みでクリスマス会に来られており、子どもってほんとにすばらしいなと感嘆させられたものでした。

ストレス解消法

月のうち半分以上が県外生活のため、日々リフレッシュできているのかストレスはありません。熱心ではありませんが、長年、瞑想を続けており3年前から家にホルミシスルームを作り楽しんでいます。最近、詩吟とエゴスキューブはじめました。

後輩たちに期待すること

子どもに関する問題はすべてクリアされたといわれるR.シュタイナーに出会いライフワークにしています。シュタイナーは12感覚を提唱し、発達段階を7年毎に考え、7歳までに触覚、生命感覚、運動感覚、平衡感覚で構成される意志感覚の育成を重視しています。今、時代はこれまでこうであったからという前例が通用しないほどの未曾有の大転換期を迎えています。今だからこそシュタイナーの人間観、発達論の重要性が認識されます。常識と思えることを一端脇に置いて、素から自分で考え納得して行動に移していくべきだと思います。感覚器官を全開にし、自分で見、聞き、感じことを大事に育てていく、「おやっ」と思ふことをそのままにしないで、立ち止まり考え、とことん追求していくといった姿勢を大事にしたいと思います。閉塞感ただよう現代、子どもたちは遊びいっぱいの自由な子どもらしい子ども時代を失ってきてています。そして大切な自然体験や本物に接する機会がどんどんバーチャル体験に置き換えられています。小児看護の目標である健やかな成長発達ができるだろかと危惧されます。今思い切ったイノベーションが求められているのではないでしょうか。そして、ご自分を大好きでいることがその土台になります。そのことがすべてを受け入れ、他と全身全霊で向き合える土台になると思っています。



バトンを受けて欲しい人 駒松仁子さん

病院における子どもの権利を擁護するキャッチコピーの募集について

健やか親子21推進事業委員会では、子ども権利条約の理念の普及に取り組んでいます。今回は、その一環として、啓発ポスターを作成することにしました。病院における子どもの権利を擁護するキャッチコピーを

会員の皆様から募集し、優秀作品を啓発用のポスターに活用させていただきたいと思っています。多くの方からの応募をお待ちしています。

詳細については、同封のチラシをご覧ください。

健やか親子21推進事業委員会活動報告

特別支援学校で医療的ケアを必要とする子どもの安全性を保障する看護師の配置に関する政策提言について

委員長：二宮啓子

2月14日（月）に「特別支援学校で医療的ケアを必要とする子どもの安全性を保障する看護師の配置に関する政策提言」の提出とその趣旨の説明を行うため、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課に及川理事長と一緒に行きました。本学会の紹介と政策提言についての説明を行い、資料をお渡ししました。課長から看護師さんの状況はよく理解していますので、今後も状況の改善に努力していきますと言われました。また、何か看護師の配置や支援体制として、実際に

good practiceを行っている事例があれば教えてほしいと言われました。その他、日本看護協会、看護系議員に政策提言についての説明とご支援をお願いしてきました。山崎摩耶衆議院議員には、お会いできましたが、阿部俊子衆議院議員、高階恵美子参議院議員は不在のため、秘書の方に政策提言とその説明をしてきました。また、記者クラブにも政策提言をお送りしました。（政策提言の内容については、HPをご覧ください）

第11回（2011年度）中国地区地方会 開催案内

第11回「地方会」を2011年6月18日（土）、島根大学（島根県出雲市）において開催予定です。メインテーマは“病気や障害がある子どもと家族の成長を支える看護～医療的ケアが必要な子どもと家族を支える多職種の連携と協働について～”、実行委員長は島根大学医学部看護学科 矢田昭子氏です。詳細については、今後、学会ホームページなどで随時お知らせいたします。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。

第2回（2012年度）日本小児看護学会研究助成公募

日本小児看護学会では、子どもたちの健康増進に寄与するため、小児看護の実践・教育に関する調査・研究について、当学会会員の実践家を対象にその費用の一部を助成しています。助成は2件、1件10万円程度です。

【応募資格】

代表研究者は入会年度を含めて3年以上を経過した者であり、代表研究者・共同研究者は2011年度の会費を納入した本学会の会員であること。大学や研究機関に所属する者は代表研究者になることはできない。

【応募方法】

日本小児看護学会規定の申請書に必要事項を記入し、簡易書留にて日本小児看護学会学術交流推進活動委員会に申請書を送付する。

【応募締め切り】

2011年11月30日（水）必着

詳細は、学会ホームページ<http://jschn.umin.ac.jp>をご覧ください。

～ ありがとうございました～

宮崎県口蹄疫被害地域の 子どもたちへの義援金

日本小児看護学会第20回学術集会（学会長片田範子氏、神戸）において、本学会会員および参加者の皆様からの募金「宮崎県口蹄疫被害地域の子どもたちへの義援金」140,451円をいただきました。活動内容につきましては2011年度総会においてご報告させていただきます。ありがとうございました。

宮崎県の会員を代表して
花野典子、草場ヒフミ

◆編集後記◆

日本小児看護学会ニュースレター第38号をお届けいたします。今回は、前号発刊から3か月を経て少々油断しておりました。大急ぎで原稿をとりまとめましたので、執筆をお引き受け頂いた方々には大変ご迷惑をおかけいたしました。深謝申し上げます。今号は、認定看護師の方の活動報告を掲載いたしました。継続して紹介していきたいと考えておりますので、全国の専門看護師や認定看護師の皆様のご協力をお願いいたします。また、ニュースレターについてのご要望もお待ちしております。

学会ホームページ(<http://jschn.umin.ac.jp>)もぜひご覧ください。

広報委員会メンバー

委員長：武田淳子

委員：塩飽仁、白畑範子、今野美紀、遠藤芳子、
大池真樹、小野寿江